

断酒 みどりの友



創立40周年記念大会 (呉市民会館)

発行所 呉みどり断酒会
 事務局
 呉市押込5-12-25
 渡部 憲方
 郵便番号 737-0915
 電話 33-5571
 発行人 (編集代表) 渡部 憲
 印刷 松広印刷機



独りじゃない喜び

会長 渡部 憲

酒を止めてよかった。断酒会に
 いてよかった。この日ほど切実に
 感じたことはない。嬉しさが心の
 底から込み上がってきた。

2月4日、暖冬とはいえ記録的
 な暖かさの中、会場の呉市民会館
 には八百六十五名もの県内外から
 の参加を頂き、『呉みどり断酒会
 創立40周年記念大会』を開催する
 ことができた。紙面をお借りして、
 参加頂いた多勢の皆様方に、心よ
 り厚くお礼を申し上げます。

20年前、懐かしいこの会場で、
 体験発表をさせてもらった。不眠
 とイライラで、飲んでの方が楽な
 ような気がする時期であった。

断酒会にたどりつく迄の私は、訓
 戒、戒告、2度の減給、そして停
 職……。デタラメに制服を着せた
 ような自衛官であった。

酒を止める約束ができるのなら
 と、最後の温情で首の皮は残った
 もの、36才の私は、定年迄には

18年もある。気の遠くなる様な数
 字である。夜が嫌だった。寢床に
 入ったら、必ずその「18年」に悩
 まされた。子供達の卒業、就職、
 結婚、そして初孫、又は万が一の
 親兄弟達の不幸、私の定年退職
 ……どれひとつ取っても、そこに
 酒はつきものだ。この先、私には
 それも出来ないのか……と。

自信は無い。しかし、約束は約
 束。「あーア」とため息をついて
 は寝返りばかりで、気がついてら
 朝だ。独りだったら間違いなく飲
 んでいただろう。そんな辛い毎日
 の私に、徐々に勇氣と希望を与え
 てくれたのは「友」であった。

一枚ずつ増えてくる名刺、年賀
 状、そして電話。どこの会場に出
 向いても必ず笑顔で握手をしてく
 れる友。もう独りではなかった。

今回の40周年の会場で、あらた
 めて友の大切さを感じ、その温情
 に胸が熱くなった私でした。



受付準備完了

昭和四十二年二月九日、旧長尾病院内の院内断酒会として産ぶ声をあげた『呉みどり断酒会』。

“いざなぎ景気”の兆しが見え、当時の呉市内も長年親しまれた路面電車が姿を消し、人と車が忙しく行き交い、夜の歓楽街も今では想像できないほどの賑わいを見せていた。

多くの方に支えられ、お蔭様で当会も平成十九年二月四日(日)大きな節目としての「創立四十周年記念大会」を開催することができた。

二十年ぶりの会場(創立二十周年開催)となった呉市民会館に

は、行政、医療の来賓三十数名をはじめ、朋友断酒会、一般の八百六十五名の参加を頂き、多くの激励、祝福を受け、感無量であった。

市内を一望出来る広いロビーでは、コーヒーマシンを片手に「大和ミュージアムはあそこか？」などと談笑、交流に花が咲いていた。

大会は十二時半から始まった。会場は超満員となり、立ち見の人も出るほどの盛況ぶりであった。

同じく五年表彰の藤川芳文氏の奥様照美さん、そして副会長の石田眞一さんの三名であった。

顔なじみの体験発表ではあるがエプロン姿の家族も、百数十名の療養中の方も、真剣に聞き入っていた。

記念講演は、当会の育ての親である呉みどりヶ丘病院院長 長尾澄雄先生に『四十年みどり会と共に歩んで』と題して、お話し頂いた。

創立四十周年記念大会

体験発表は、前日の例会で三年表彰を受けられた曾根敏浩さん。



家族会によるコーヒーサービス



講演中の長尾澄雄先生

四十年前の発会当初からの会員は一人もいない今、先生から折りに触れて当時の苦労話を聞かされ



連鎖握手

終始、熱気に包まれた大会も、有本全断理事の連鎖握手、吉田県連副会長の万歳三唱の音頭で定刻通り、盛会裏のうちに終了することができた。

四十年という歴史の重み、『呉みどり』という伝統を背負ったの今大会の開催に、正直不安もあった。しかし、大会の翌日には、「御苦労様、ほんとに素晴らしい大会だったよ」などと、慰労やお礼の電話を多くの方から頂いた。

「いいえ、これもほんとに皆さんのお蔭ですよ。これからどうぞよろしく。」それ以外の言葉は見当たらなかった。

創立四十周年記念大会 寄付者御芳名

河野 泰知様	三、〇〇〇円	河野 泰知様	三、〇〇〇円
江口 義雄様	三、〇〇〇円	江口 義雄様	三、〇〇〇円
広島市		広島市	
熊野うた子様	一〇、〇〇〇円	熊野うた子様	一〇、〇〇〇円
呉市		呉市	
上田 隆司様	五、〇〇〇円	上田 隆司様	五、〇〇〇円
竹原市		竹原市	
山根多賀資様	一〇、〇〇〇円	山根多賀資様	一〇、〇〇〇円
芸南断酒会		芸南断酒会	
為季 明男様	五、〇〇〇円	為季 明男様	五、〇〇〇円
山根 巖雄様	五、〇〇〇円	山根 巖雄様	五、〇〇〇円
藤川 幸男様	三、〇〇〇円	藤川 幸男様	三、〇〇〇円
福山みずほ断酒会		福山みずほ断酒会	
熊谷 康徳様	一〇、〇〇〇円	熊谷 康徳様	一〇、〇〇〇円
滝沢 豊様	五、〇〇〇円	滝沢 豊様	五、〇〇〇円
向井 博司様	五、〇〇〇円	向井 博司様	五、〇〇〇円
石川 高士様	一〇、〇〇〇円	石川 高士様	一〇、〇〇〇円
広島断酒ふたば会		広島断酒ふたば会	
中田 克宣様	一〇、〇〇〇円	中田 克宣様	一〇、〇〇〇円
府中断酒会		府中断酒会	
石橋 博様	五、〇〇〇円	石橋 博様	五、〇〇〇円
檀上 昇様	五、〇〇〇円	檀上 昇様	五、〇〇〇円
岩国断酒にしき会		岩国断酒にしき会	
岡 弘通様	五、〇〇〇円	岡 弘通様	五、〇〇〇円
岡山断酒新生会		岡山断酒新生会	
有本 敬様	一〇、〇〇〇円	有本 敬様	一〇、〇〇〇円
三宅 一民様	五、〇〇〇円	三宅 一民様	五、〇〇〇円
宗田 基志様	三、〇〇〇円	宗田 基志様	三、〇〇〇円
西崎 義彦様	五、〇〇〇円	西崎 義彦様	五、〇〇〇円
保田まゆみ様	三、〇〇〇円	保田まゆみ様	三、〇〇〇円
秦 亜希子様	三、〇〇〇円	秦 亜希子様	三、〇〇〇円
水本満知子様	三、〇〇〇円	水本満知子様	三、〇〇〇円
石川 尚子様	三、〇〇〇円	石川 尚子様	三、〇〇〇円
岡崎 麻美様	三、〇〇〇円	岡崎 麻美様	三、〇〇〇円
辻原 文治様	三、〇〇〇円	辻原 文治様	三、〇〇〇円
星野 政弘様	三、〇〇〇円	星野 政弘様	三、〇〇〇円
村谷 順子様	三、〇〇〇円	村谷 順子様	三、〇〇〇円
斉藤 玉枝様	三、〇〇〇円	斉藤 玉枝様	三、〇〇〇円
森川身江子様	三、〇〇〇円	森川身江子様	三、〇〇〇円
大島 艶子様	三、〇〇〇円	大島 艶子様	三、〇〇〇円
沢崎 真一様	三、〇〇〇円	沢崎 真一様	三、〇〇〇円
木原 真二様	三、〇〇〇円	木原 真二様	三、〇〇〇円
南部 昭一様	三、〇〇〇円	南部 昭一様	三、〇〇〇円
坂田 国代様	三、〇〇〇円	坂田 国代様	三、〇〇〇円
河崎 千鶴様	三、〇〇〇円	河崎 千鶴様	三、〇〇〇円
面田 正枝様	三、〇〇〇円	面田 正枝様	三、〇〇〇円
住吉 秀則様	三、〇〇〇円	住吉 秀則様	三、〇〇〇円
佐藤 正明様	三、〇〇〇円	佐藤 正明様	三、〇〇〇円
山根 文子様	五、〇〇〇円	山根 文子様	五、〇〇〇円
田代 時弘様	五、〇〇〇円	田代 時弘様	五、〇〇〇円
呉みどりヶ丘病院		呉みどりヶ丘病院	
長尾 澄雄様	五〇、〇〇〇円	長尾 澄雄様	五〇、〇〇〇円
呉みどりヶ丘病院院長		呉みどりヶ丘病院院長	
長尾 邦雄様	三〇、〇〇〇円	長尾 邦雄様	三〇、〇〇〇円
ほうゆう病院理事長		ほうゆう病院理事長	



生みの親、長尾邦雄理事長に感謝状

謝状の贈呈が行われた。

芸南断酒会様	一〇、〇〇〇円	芸南断酒会様	一〇、〇〇〇円
備後断酒友の会様	一〇、〇〇〇円	備後断酒友の会様	一〇、〇〇〇円
広島断酒ふたば会様	一〇、〇〇〇円	広島断酒ふたば会様	一〇、〇〇〇円
岡山断酒新生会様	三〇、〇〇〇円	岡山断酒新生会様	三〇、〇〇〇円
柳井断酒会様	五、〇〇〇円	柳井断酒会様	五、〇〇〇円
香川県断酒会様	三〇、〇〇〇円	香川県断酒会様	三〇、〇〇〇円
呉みどり断酒会		呉みどり断酒会	
川西 國昭様	五、〇〇〇円	川西 國昭様	五、〇〇〇円
山本 一義様	一〇、〇〇〇円	山本 一義様	一〇、〇〇〇円
小池 保男様	一〇、〇〇〇円	小池 保男様	一〇、〇〇〇円
石田 真一様	一〇、〇〇〇円	石田 真一様	一〇、〇〇〇円



感激の1年断酒表彰を受ける

☆一年表彰	渡辺 圭次	☆一年表彰	渡辺 圭次
"	井藤 宏道	"	井藤 宏道
"	大下 美恵	"	大下 美恵
"	松原 宏治	"	松原 宏治
"	佐伯 忠	"	佐伯 忠
"	藤田 数夫	"	藤田 数夫
"	西村 正俊	"	西村 正俊
☆三年表彰	中司 仁博	☆三年表彰	中司 仁博
"	曾根 敏浩	"	曾根 敏浩
☆五年表彰	遠藤 勇人	☆五年表彰	遠藤 勇人
"	藤川 芳文	"	藤川 芳文
"	植田 和雄	"	植田 和雄
☆十五年表彰	松戸 善治	☆十五年表彰	松戸 善治
"	小池 保男	"	小池 保男
☆二十年表彰	中田 頼子	☆二十年表彰	中田 頼子

断酒継続表彰者 (創立40周年記念)

創立四十周年記念大会体験発表



曾根敏浩

皆さんこんにちは、いつもお世話になっております。呉みどり断酒会の曾根敏浩と申します。本日は、よろしくお願ひします。

私は現在、呉みどり断酒会に初入会以降、断酒四年目を迎えました。

私のお酒との付き合いは成人就職を機会に始まりました。当初より酒には強く人並み以上に飲んでいました。周囲の人からは「曾根君はお酒が強いね、顔色一つ変わらないうし、頼もしいね。」とよく言われ、そのことを嬉しく思っていました。

当時は若く回復力もあつたのでしよう。二日酔いや体調を悪くすることも殆どありませんでした。結婚後もお酒の量が減ることはなく増える一方でした。

何か特別不満等がある訳ではなくとにかくお酒の味が好きでした。仲間と飲む雰囲気が好きでした。多少、量が多くてもこのような楽しいお酒が悪いはずがないと、自分の中ではいつも、そう思っていました。

毎日の大量飲酒も十年近く続くと体は次第に酒漬けの状態で、この頃になると翌朝までお酒が残る事が毎日のようになっていました。だからといって控えるとか、休肝日をつくるとか、考えたこともありませんでした。根っからの酒好きでした。

しかし、ある出来事を境にこれまでの飲み方が一変する事になりました。それは生涯忘れる事のない衝撃的な体験でした。

今からちょうど十年前、三十七歳の時でした。私たち夫婦は私の仕事の関係でタイのバンコクで暮らしていました。バンコクでの生活も一年を過ぎていました。

いつものようにベッドで寝ているとそれは突然起こったように思えます。目を閉じていると、この世の物とは思えない、おぞましい姿の生き物が現れては消え、消えては現れるの繰り返して、それが夢ではない事はすぐに理解出来ました。

しかし、一体何が起こっているのかは分かりませんでした。後で分かっていた事ですが、これが一度目の「幻覚、幻聴」の始まりでした。「幻覚、幻聴」はこれだけでは終わらず、聞こえないはずの自分を呼ぶ声があったと思ひ、隣の家の扉を叩いたり、いないはずの人の姿を追いかけたりマンシヨンの周辺を駆けずり回り、挙句の果てには誰かが自分を監視していると思ひ込み、マンシヨンの警備員や管理人までを無理矢理連れ出し、必死でさがしていたように思ひます。

このような状態が何時間続いたかは全く記憶がありません。覚えている事はその後、妻にさとされる様にしてタクシーで病院に行つたことです。

「幻覚、幻聴」はまだおさまっ

ていませんでした。病院でも、いないはずの人の姿を追いかけて8階の病室の窓から出ようとして警備員に制止され、最後は注射で眠らされたり、点滴の針を自分で抜いて、病室から抜け出し院内を徘徊していたそうです。

結局、「幻覚、幻聴」が私の頭から完全に消え去るには一週間程かかったように思ひます。

私が覚えているのは、断片的なことではしかなく、一部始終が分かつたのは、妻が書き残していたメモの後で見た時でした。

現れる「幻覚、幻聴」に怯え、恐怖心と不安感でいっぱいになり見えないはずの人の姿を必死で追いまわす気が狂つた自分がいました。

何故こんな事になつたのだろうか、どうしてなのか、自分の中ではいくら考えても結論はでませんでした。病院の先生や妻に教えられて初めて、その原因が「アルコール」であることを知りました。

突然の出来事を傍で全てを見ていた妻にとつては、私以上にショックでいたたまれない気持ち

で一杯だったと思います。

しかし、私の悪行はこれでは終わらず、体調が良くなると入院中にもかかわらず、外出許可を取り、真っ先にウイスキーを買い求め、病室で飲んでいました。罪悪感や後悔の念など、みじんもありませんでした。

帰国後、すぐに会社の産業医で精神科の先生に呼ばれ「このまま飲酒を続けると会社で四十歳を迎える事は有りませんよ。断酒の意志があるのなら薬を使う方法もありますよ。」と言われましたが、私に断酒の意志など全くありませんでした。

しかし、このままではいけないという気持ちもわずかながらあったのだと思いますが、それ以上に家族や周囲からの、お酒を飲ませまいとする目が気になっていました。

これを機会に毎日の飲酒から山型飲酒へと変わって行きました。

三ヶ月位の割合で、特に連休等をきつかけに連続飲酒をするようになりました。連続飲酒が始まると時間も曜日の感覚もなく「お酒、

お酒」の毎日でした。

飲み疲れ、気が付くと一週間が経っていたこともありました。



適切な理由を付けては、会社を休み、点滴で体調を良くしては、気まずい思いで出社する事の繰り返しでした。状態は以前にも増して悪くなっていったように思います。

周りにどれほどの、心配や迷惑をかけている事など考える事もなく、自分勝手に都合のいいことだけを言ってお酒に逃げていたと思います。

このようなことを、七年間も続けてきました。その結果、平成十六年一月、二度

目の「幻覚、幻聴」が出ました。

二度目ということもあり、状況はすぐに理解出来ましたが、やはりいけないはずの人の姿を必死で追いかけている自分がそこにはいません。その怖さは一度目と同じものでした。

この怖さから逃れたい為、これを止めてくれる所へ連れて行って欲しいと妻に頼みました。そして、呉みどりヶ丘病院に一週間入院し、呉みどり断酒会に繋がりました。

院長先生、田宮先生に断酒会に入る事を薦められ「入るのならここに電話しなさい。」と電話番号を書いたメモを頂きました。それは田中相談役のご自宅の電話番号でした。

先生にここまでして頂いたのだから、電話だけはこの気持ちで連絡をしました。これが、断酒会に入会する始まりでした。

今は水曜日、土曜日に二人で例会に出席し、おかげさまでお酒が止まっています。

人として、社会人として責任を持つて生活、仕事が出来よう、

それを支えてくれる断酒会を大切にしていきたいです。

何年も止めていらつしやる先輩方の姿は、止める事が可能だと、希望を与えて下さっています。

なんでも話を聞いて下さる先輩方には、例会出席の足取りを軽くして頂いています。

差し伸べてもらった手を、決して離さないように、これからも例会出席を続けたいと思います。

以上で私の体験発表を終わります。

本日は、「呉みどり断酒会創立四十周年記念大会」の貴重な場において、皆様方の大切なお時間を頂き、ありがとうございました。





藤川照美

(家族)

本日は、呉みどり断酒会四十周年、おめでとうございます。この長き歴史に松明を消すことなく受け継がれてこられた、長尾院長先生

始め、先輩方には大変感謝しています。この佳き日に体験発表の機会を頂き、ありがとうございます。

今、私達夫婦は、朝のウォーキングで一日が始まります。この切っ掛けは、主人が定年と同時にアルコール依存症になり、思わぬ

「酒」との戦いが始まる中、私も長年勤めていた職場を辞めることになりました。それまで描いていた

夢や希望が消え、ライフスタイルが一変することでストレス解消にと始めたのがウォーキングでし

た。その頃の主人は、仕方なく私に同行していた様に思います。

ある日、同じ様に歩いている方に、私が挨拶すると主人は、「何で挨拶するんだ！こつちから挨拶することはない！」と怒りま

す。人としての基本、常識すら欠

けている主人に腹立たしく思いました。が、これも酒で心が病んでいるのかと思えました。その主人も酒を止め続けて行く内に今では欠かせない日課となり、コミュニケーションタイムにもなっています。又擦れ違う人にも挨拶の声が聞ける様になりました。

思えば、平成八年やつこの思いで定年を迎えた主人に、これで老後安泰と思つたのも束の間、まさ

かの人生の落し穴、それも取り分け大きな「酒樽」の中に落ち込み、日々アルコール漬けになっていき

ました。暴力こそはないものの、家の中で生きた屍の如く無気力を醜態を晒し、物を口にすると嘔吐

を繰り返す、これではいけないと酒を止めると、その内、手が震え夜

は眠れず悪寒が来て生汗をかき、身の置場もないほどがき苦しみます。そして、時々大声を出して

は一人言を言い、物音を荒らだたせませす。段々とイライラも激しくなり、話しかけると「オー」「ナ

ニー」「ドシター」と威嚇的になり、その時の機嫌や気分、都合によって行動が変わり、突然怒

鳴られたり物が飛んだりします。その為、私は物を言うタイミングを考え、自分の感情を押し殺してしまいました。この様な異常な精神状態が繰り返される中、当然私の

ストレスも蓄積します。このストレスを職場に持ち込むまいと、通勤時には、自動車のカセットに童謡や叙情歌を流しては心を和ませ

ていました。ところが、仕事をしていても「酒の一字が頭から離れません。ある時は、「死にそうな！苦しい！助けてくれ」と電話がかかってくる

ます。その都度職場には迷惑をかけ、恥もかき失意のどん底に陥ちてゆき、「何故この様な事態になつたのだろう！」と自分を責めるこ

とで訳の分らない涙が出て仕方がなかつた事が度々ありました。一般の内科へも何度となく入院

するのですが、定年後の入院は全く治療にならず、酒類を買い込んで飲み、パジャマ姿で町中へ飲

みに出たり最後には、被害妄想から同室の患者さんと喧嘩となり、強制退院になりました。先生から

「みどりヶ丘病院を紹介しましう」と言われた時は大変ショックを受けましたが、それでも私は主人の飲酒の行動に一喜一憂しながら世間体を考え、なかなか精神科への入院に決心がつきませんでした。所が、主人の様子は悪くなるばかりで、大黒柱としての威厳を失い人生の敗北者同然「死」を求め

るだけの姿を見て、私は幻滅し「何故こんな人と結婚したのだろう！こんなはずではなかつた！死にたければ死ねばいいのに」と、そこには絶望感から来る主人を憎み軽蔑する荒んだ心の私がいま

した。いけないと思いつつも、その怖さを紛らわすため私は、毎朝般若心経を唱えることで自分の心を誤魔化していた様に思います。

勿論離婚も考えました。しかし、子供に親としての責任を転嫁することへの罪悪感を思うこと、それ以上一生懸命積み重ねて来たこれまででの人生その全ての価値観が一瞬にして否定されることへの失望感に、私自身が「無」になる様で、その事の方が悔しくて、とても精神的に立ち直れないと思えました。

ならば、主人に人間らしさを取り戻してもらいたい！その一心からこのままでは、同じ事の繰り返しで家庭崩壊につながり、なんら問題解決にならないと考えました。そこで初めて、みどりヶ丘病院に最後の望みを託し、平成12年、拒否していた主人を騙しながら入院させることになりました。

私は、正直「ホッ」とすると同時にこれで安心して仕事に行けると、その時の主人の気持など少しも考えていませんでした。反発する主人の姿を見て時間が経つと共に自分の取った行動が正しかったのかどうか数日間悩んだことも事実です。そして、当時我家にもやつと「幸せ」を掴みかけた娘がいて、彼を紹介してくれたばかりの出来事で、縁談と主人の断酒の闘いが同時進行となったからです。

私は、結婚に悪い影響を与えるのではないかと心配で、先方の御両親に正直に、お話しをした所、「断酒に向って頑張っていらいっしやるのなら」と御理解して頂くことが出来、とても嬉しかったことは忘れません。

幸にも、私は主人を入院させると同時に断酒会を紹介して頂いた先輩宅を早速訪ねました。そこでこれまでのプロセスを滝の如く話す私の言葉に黙って耳を傾けて聞いて下さった先輩に大変心が救われたことを、今も感謝の気持ち一杯です。



又、偶然にもその日は、土曜例会があり「奥さん、今夜一緒に行きましょう」と誘って下さり、運よく断酒会との出会いを頂きました。これまで家族の力ではどうすることも出来なかつた「お酒」が本当に断ち切る事が出来るのかどうか、半信半疑でしたが、期待するしかないと考え、主人が入院中より一生懸命例会出席をしました。

ここに来て一滴も飲んではいけな病気を初めて知り、先生の所感、体験発表を聞く一言一言に感銘し、納得、その恐ろしさを思い知ることとなりました。同時に今迄の自分が如何に無知無能で愚か者だったかを恥じると共に、これまでの様な甘い考えでは、私達夫婦は立ち直れないと思えました。

そこで主人には断酒会に入る事を条件に退院してもらいましたが、私が考えるほど単純なものではなく、「お前は、断酒会に洗脳されている」と、反発しながらの例会出席です。その間、娘に一人二人と孫が生まれるにも拘らず、なかなか自分の立場を理解してもらえません。再飲酒する度に先輩の方が訪ねて下さり、勇気付けて下さるので、それでも酒への未練が断ち切れず、以後四回のスリッパを繰り返しながら、無駄な抵抗を四年間して来ました。その後は紆余曲折を乗り越えて、今やつと完全断酒五年を迎えることが出来ています。あれほど必要としていた安定剤、頭痛薬、セイロガンにもお世話になることなく元気に古

希も迎える事が出来ました。もし断酒会がなかったら、私達の人生は破滅していたと思います。とかく今の社会、私達の様な年代は、身も心も固まりがちになります。その為には自分を刺激して生きて行きたい！幸いにして私達には、その刺激を受ける例会があります。最初の頃は「アル中」という見下された屈辱的な言葉に羞恥心と心なしか抵抗がありました。が、以前、昭和天皇の言われたお言葉の中に『雑草という草はありません。どの様な草にも一つ一つ立派な名前がついています』と言われ、感銘を受けた事があります。

社会では「アル中」と一言で片付けられますが、皆さんにも立派な名前があると思います。主人にもその名前に恥じることなく人間らしく生きてほしいと願っています。その為には断酒会では「草魂の断酒」と言う言葉を聞きます。

踏まれても 根強く忍べ道草の やがて花咲く 春が来るべし
この歌を心してこれからも初心を忘れず例会を大切に生きて行きます。



石田 眞一

呉みどり断酒会の石田です、宜しくお願い致します。

呉みどり断酒会創立四十周年記念大会、誠にめでとございます。

四十周年という大きな節目の、創立記念大会に体験発表の機会を与えて頂き、感謝申し上げます。

「ガチャーン」とガラスの割れ散る音。隣の窓に向けて投げたビール瓶が当たって、ガラスの破片が飛び散った。窓際には、若いお母さんが、赤ちゃんに添い寝をしていた。結果的に母と子に、怪我は無かったが、酔っ払ってはいいても、一瞬ヒヤリとした。静けさの残っている夏の早朝の事である。暫くして、パトカーが来る。近所中大騒ぎになってくる。パトカーに乗せられる途中、「酒を持って来い!!」と怒鳴りながら、警官に連れて行かれたらしい。酔っている頭では、所々しか記憶に無い。昭和五十九年七月の初旬の事である。

前日の夕方から飲み始め、完全なブラックアウト状態となる。



当時、中学生、高校生三人の息子たちは、学期末試験の為、勉強中で、大立ち回りを演じ、警官に連れて行かれる姿を目撃している。酔っ払ってふらふらしながらパトカーに乗せられる、父親の姿を見ていた、思春期の傷付きやすい年頃の息子たちの胸の内を思うと……私の想像を絶する思いであつたらうと、考えると慚愧に絶えません。私が警察に連れて行かれた後、家内と義理の姉達が、後片付けど、近所にお詫びに回るのに、

一週間程かかったと、後で聞かされました。家族はもとより、多くの人に、多大な迷惑を掛けたことを思うと、心より反省せざるを得ません。

私の飲酒のきっかけは、高校に入って暫くして、親しい友人もでき、その仲間とビールを口にしたのが最初で、苦くてこんな物は飲めた物ではないと思いつつ、いつの間にか、平気で口にする様になっていった。

二日酔いで、学校を休むと言う失態をするようになっており、今思えば、この頃が、アルコール依存症になる序奏の時期であつた。

卒業後、家業の燃料店を継ぐため、勉強の意味もあつて、地元の会社に就職し、東京、名古屋、大阪と三年間、各営業所に勤務となるが、親元を離れた開放感と都会の魅力にとりつかれて、たつぷりと酒の味と、遊びを覚えた。祖父が老衰と云うことで、会社を退社して呉に帰って来ました。

自営の為、少々飲んで休んでも首になることはなく、我がまま放題、飲んで仕事もろくにしない私に、父母も困り果て、叱るが、言うことは聞かない、当然、いさかいが起こる。果ては喧嘩になり、父に手をかけるはめになりました。父に手をかけたと云うことで、後悔の念に苛まされ、それを忘れる為、酒量が増し、次第に逃げの酒になり、両親も心配して、嫁さんでも貰えば、少しは変わってくれるだろうと、昭和四十一年三月、二十五才の時に、見合い結婚をしました。

結婚しても、酒量は相変わらず、馴染みのスタンドバーに友人とよく飲みに行っていました。

商売の関係で飲み友達も多く、一週間の内に四・五日は出かけておりました。商売は両親と家内にまかせ、それでも私にとつて、この頃の酒は楽しい酒でした。結婚した昭和四十年代は、割と社会も酒に対して寛大であり、「酒の飲めない様な者は、仕事も、一人前には出来ない。」そんな風潮の中で、自

然に酒に、のめり込んでいった様に思います。深酒が重なると、二日酔で仕事が出来ない状態が続き、二日酔が、三日酔いになり、段々と無力感を感じる様になり、それでも酒が口に入っていないければ、何も出来ない状態に陥っておりました。

その頃から、家族にも手を掛ける様になり、私の晩酌が始まると、始めは三人の息子達も懐いてくれておりますが、酔いが回ってくるのと、一人去り、二人去り、最後は一人酒になっておりました。それが気に入らず、無性に腹が立ってきて、手当り次第物を投げる。注意する家内は、『火に油を注ぐが如く』、喧嘩が始まり、それも半端なものでなく、私が手を掛けると、気の強い家内は負けじと、刃向ってきますので、少々のことでは、納まりがつかせません、家内の顔は、お岩の様に、腫れあがり、肋骨には「ビビ」が入ったこともありま

は、心身共に傷つけ、すまない気持で一杯です。家内はこのままで、は、両親とうまくいかないもので、私の建てたアパートが有りましたので、私達親子五人、そこに移る事になりました。

両親と別居しても、酒量は増すばかりで、喧嘩の絶えることはありませんでした。

そして年貢の納め時だったのが、冒頭でお話しました大立回りで警察に連れて行かれた時です。初めて警察のお世話になり、幸いにも、警察に只みどりヶ丘病院の院長先生が来られ面談があり、入院という事になりました。その時は、どこに連れて行かれるのか、定かではありませんでした。そして、そこが、「只みどりヶ丘病院」でした。朦朧とした頭の中で、最初に思った事は、助かった。と云う気持ちと共に、精神病院、閉鎖病棟に入院と云うギャップで、絶望感に襲われ、そう自分の一生は、これで終ったと正直思いました。

入院中、一日一日自分の体の中から、酒が抜けていき、正気に近づくと、ほとんど覚えていない記憶の断片から閃々とした日々を過ごしました。三ヶ月の療養生活を終え、退院する時に院長先生から、必ず断酒会に繋がる様にと、助言を頂き退院しました。

家に帰る道すがら、三人の息子たちが、自分をどういう目で見るか、どういう思いで迎えてくれるか、複雑な思いの帰宅でした。その時の状況を、この原稿を書くにつけて、思い出そうとするのです

が、どうも記憶が曖昧で、思い出せません。院長先生に言われた通り断酒会に入会させて頂き、今日迄、酒を手にする事なく、過ごさせて居ます事に感謝申し上げます。

らしく生きたい、そう云う思いはありましたが、結果、一人では、どうする事も出来ず、もがき苦しんで、遠回りしながら、断酒会にたどり着きました。心配、迷惑、信用を無くし、無くしたものは数え切れません。見栄も何もかも捨てて先輩を信じ、会を信じ、多くの先輩方、仲間励まされ、引つ張られ、支えられて、今日があります。そして家族の協力と、辛抱のお陰も忘れてはならないと痛感致しております。

先輩達が築いて来られた四十年の歴史は、並大抵の努力の積み重ねではなかつたかと推察致します。この創立四十周年の節目に当り、初心に立ち返り断酒精進して参ります。これからも宜しくお願い申し上げます。

しかし、断酒会に入会して今日まで、順調に来た訳ではありません。入会当初は、断酒する事と、例会出席が中々結びつかず、閃々とした時期もありました。しかしあの酒地獄の中でも、何とか人間

本日は貴重な時間を頂き、皆様

に感謝申し上げます、私の体験発表を終らせて頂きます。ご清聴ありがとうございました。

寄付者御芳名

新入会員紹介

○7月14～15日
第6回鳥取県断酒会一泊
研修会
(ホテル「大山」)

○8月24～26日
第37回山陰断酒学校
(松江市玉湯公民館)

(十一月度)

呉 藤川芳文様 五、〇〇〇円

渡部 憲様 一〇、〇〇〇円

感謝箱 二、五七二円

(十二月度)

呉みどりヶ丘病院院長

長尾澄雄様 二二〇、〇〇〇円

呉市匿名様 一六、八一六円

感謝箱 三、二四八円

(二月度)

呉 赤瀬清美様 五、〇〇〇円

感謝箱 三、一五二円

(二月度)

呉 藤田教夫様 二、〇〇〇円

// 中田頼子様 二〇、〇〇〇円

感謝箱 二、五九〇円

断酒継続おめでとう

☆二年 中島和明 12月25日

☆二年 石田卓二 1月15日

☆二年 阪本映一 2月23日

☆三年 曾根敏浩 1月17日

☆四年 石橋剛 11月27日

●呉市広白岳五―二―七―一六〇六 谷 亨

●呉市阿賀北一―一―七―一五 上門 昭彦

行事予定

○4月8日 第42回中国断酒
ブロック(山口)大会

○5月12～14日 (山口市民会館)

○6月2～3日 (本山町プラチナセンター)

○6月10日 第37回広島県断酒大会

(福山市地部市民センター)

○6月24日 第37回全断連通常総会

(晴海グランドホテル)

○7月8日 第42回四国断酒ブロック(徳島)大会

(鳴門市市民会館)

12月例会動員数

行事名	回	正会員	家族会員	賛助会員	他协会会员	院内会員	7-7-7	合計
土曜例会	5	184	70	14	70	327	80	745
水曜例会	3	106	29					135
新会員の集い	1	14	5					19
ブロック例会	1	19	9					28
家族の集い	2		20					20
懇談会	1	3						3
特別院内例会	1	23	7					30
第40回酒なし忘年感謝会	1	38	13	3	3			57
役員会	1	5						5
合計	16	392	153	17	73	327	80	1,042

11月例会動員数

行事名	回	正会員	家族会員	賛助会員	他协会会员	院内会員	7-7-7	合計
土曜例会	4	136	56	17	73	277	62	621
水曜例会	5	187	58		4			249
新会員の集い	1	11	5					16
ブロック例会	1	20	11					31
家族の集い	2		22					22
懇談会	1	2						2
特別院内例会	1	20	7					27
第25回山口県連会員合同会	1	2						2
創立40周年記念大会実行委員会	1	14						14
第11回福山一泊研修会	1	2						2
県連理事研修	1	4						4
役員会	1	6						6
合計	20	404	159	17	77	277	62	996

2月例会動員数

行事名	回	正会員	家族会員	賛助会員	他协会会员	院内会員	7-7-7	合計
土曜例会	4	145	58	21	76	298	80	678
水曜例会	4	136	45		4			185
新会員の集い	1	11	2					13
ブロック例会	1	18	6					24
家族の集い	2		21					21
懇談会	1	3						3
特別院内例会	1	16	5					21
創立40周年記念大会	1	48	20					68
創立40周年記念大会実行委員会	1	12						12
山口県やわらぎ断酒会40周年	1	17	7					24
県連理事研修	1	3						3
役員会	1	7						7
合計	19	416	164	21	80	298	80	1,059

1月例会動員数

行事名	回	正会員	家族会員	賛助会員	他协会会员	院内会員	7-7-7	合計
土曜例会	4	146	57	19	69	290	78	659
水曜例会	4	147	46		3			196
新会員の集い	1	23	9					32
家族の集い	2		26					26
懇談会	1	2						2
特別院内例会	1	16	9					25
平成19年新年合同初例会	1	38	14	10	32	70	19	183
創立40周年記念大会実行委員会	2	33	10					43
県連理事研修	1	2						2
役員会	1	7						7
合計	18	414	171	29	104	360	97	1,175